

ピースウィンズ・ショップから

有機ピースコーヒーの オフィシャルサイトが完成しました！

この春新しく仲間入りした、黒を基調としたパッケージが印象的なピースコーヒーの最高級シリーズ「有機ピースコーヒー」のレギュラー粉200gとドリップバッグはもうお試しいただきましたでしょうか。コーヒーは標高が高いほど美味しいと言われていますが、東ティモールの中でも産地を標高の高い村に限定したスペシャルなコーヒーです。

このコーヒーは、「過酷な環境下でも、ストイックに生きる。そんな強い意志を貫く冒険家やアスリートの感性を感じられるコーヒー」をイメージして作っています。また同時に、外の世界に目を向け、興味を持ってもらいたいというメッセージも込めています。

そして、この有機ピースコーヒーがどういうコーヒーなのか、また、コーヒーを飲んで国際協力ができる方法として皆さんに選んでいただきたいのはなぜなのか、などをご紹介するホームページが完成しましたので、ぜひご覧ください。

ピースコーヒーオフィシャルサイト：
<http://peace-coffee.com/>



お知らせ

東京事務所を移転しました

PWJの通常総会が4月24日に開かれ、2013年度の事業報告と決算報告が承認されました。また、広島県神石高原町への本部事務所の移転に伴う登記が完了した一方、規模が縮小された東京事務所を引っ越しました。東京事務所の新住所は以下の通りです（電話、ファクス番号、メールアドレスは変わりません）。

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-19 ツボヤビル2階



コーヒー豆の形のお砂糖と いっしょにどうぞ！

ココロコしたコーヒー豆の形がかわいい砂糖の取り扱いを開始しました。かわいいのは形だけで、その正体は蜜分とミネラル分を残して煮詰めて作られた含蜜糖です。

程良い蜜を含み、まろやかな甘さとコクが特徴の含蜜糖と、エスプレッソに入れても味が残り、存在感のある甘みと深いコクが懐かしさを感じさせる昔ながらの含蜜糖の2種類をセットにしました。コーヒーや飲み物に入れて美味しいのはもちろんのこと、先にご紹介した有機ピースコーヒーと一緒にアウトドアに連れ出し、クッキーのようにそのままお砂糖を食べるというスタイルも可能です。

ドリップバッグとコーヒービーンズシュガーが一緒になったモバイル缶ギフトも販売中です！ 皆様からのご注文をスタッフ一同お待ちしております。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

同封のご注文用紙をFAXまたはTEL:03-5213-4073まで

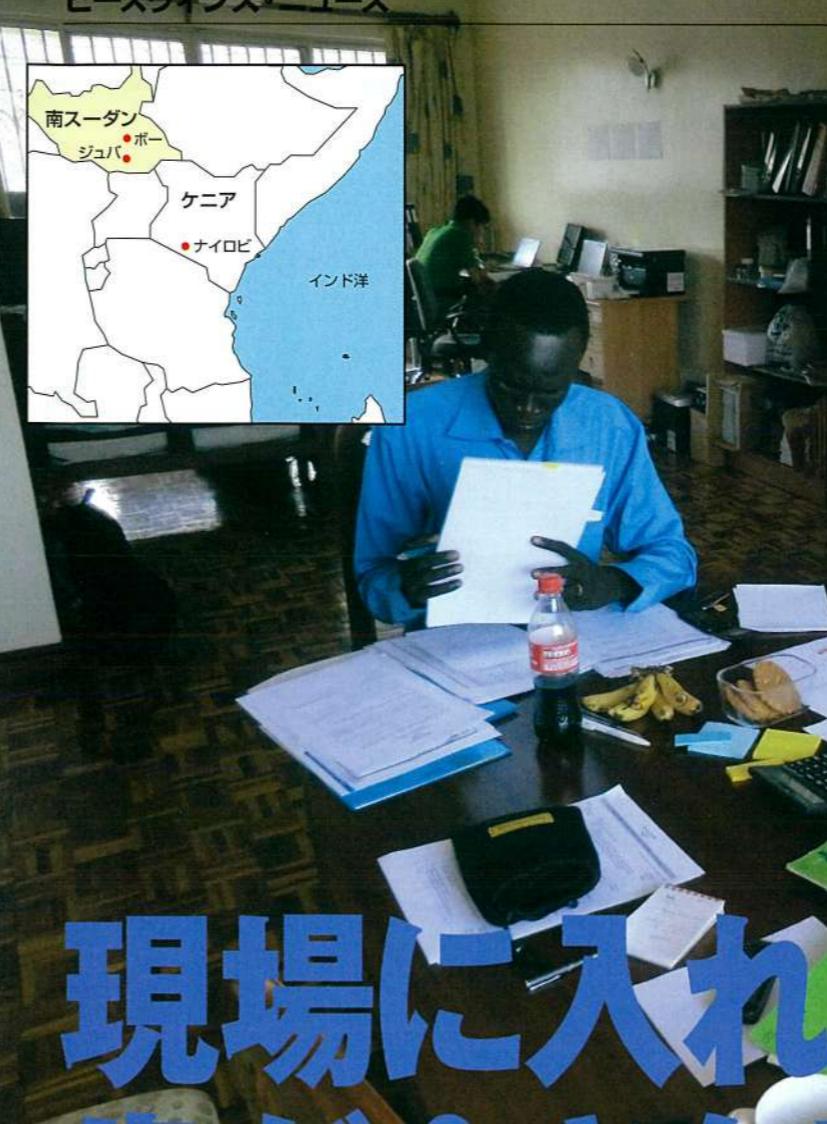
※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。



- 国際開発ジャーナル3月号、南スーダンの記事にPWJスタッフの動きが掲載
- 雑誌「週刊ダイヤモンド」2014/03/08号にPWJの東北事業が一部掲載
- 3/11 米紙シアトルタイムズの東日本大震災3年特集にPWJの東北事業が一部掲載
- 中国新聞社が発行する情報誌「ふえにっくす」で、代表理事・大西のコラム「変革に挑む」の連載開始
- 4/2 毎日、産経、中国新聞などで広島市に開設した保護犬譲渡センターが掲載、中国放送、テレビ新広島、NHKなどでも放送

メディア
掲載報告

ピースウィンズ・ニュース



支援のプロを、
世界の現場へ

現場に入れない 歯がゆさを乗り越えて

—南スーダン危機、ナイロビからの遠隔操作—

「現地スタッフの給与の支払いが昨年10月から止まっている。早急に支払わなければならぬが、現金輸送しか方法がない。悪いけど、現金を持って行ってくれない？」

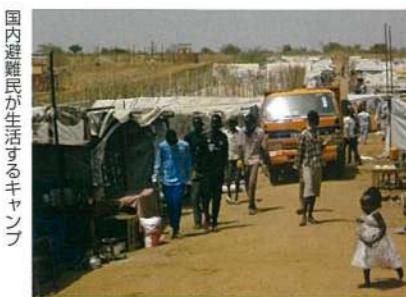
2月下旬のある日、ケニアの首都ナイロビにあるピースウィンズ・ジャパン（PWJ）の事務所で、隣の南スーダンでの支援事業を統括する清水貴子が、南スーダンから呼び寄せた現地スタッフのマニヨックに話しかけた。

「力になりたいが、あそこは反政府支配下にあるヌエル族の土地だから、ディンカ族の俺が行くのは危険だ」とマニヨック。話し合った結果、どちらの民族でもない他の2人のスタッフに現金を託すことになった。

2013年12月に起きた、政府軍内の民族対立に端を発した南スーダン危機。井戸やトイレの建設を中心に活動してきたPWJの支援チームは、治安の悪化で国外への退避を余儀なくされた。今年2月、紛争を逃れてキャンプで生活する国内避難民の緊急支援に乗り出し、キャンプ内で水・衛生支援を始めた。しかし、日本人NGOスタッフは南スーダンへの入国を制限されており、PWJはナイロビ事務所からの遠隔指示で事業を進めている。

頼りにするのは、南スーダン国内にとどまっているPWJの現地スタッフや、キャンプ内で活動している現地NGOだ。しかし、遠隔での支援にはさまざまな困難がつきまと。その一つが民族や部族の複雑な関係だ。例えば、PWJの現地スタッフには事業のモニタリング（進捗状況などの確認）が得意なウガンダ出身のエンジニアがいるが、ウガンダ軍が今回、反政府勢力を制圧するために大規模な軍事攻撃を行ったことが影響し、彼はどの事業地にも入れない状況になっている。

清水らの胸には現場に入れないもどかしさが募る。それでも、PWJの支援を待つ人がいる限り、困難を乗り越えて支援を届けなければならない。現地スタッフとの強い信頼を支えに、挑戦が続く。★特集は裏面に続く



国内避難民が生活するキャンプ

南スーダン危機、その時スタッフは

PWJは2006年から、南スーダン（当時は「スーダン南部」）のジョングレイ州において、長期内戦のために国外へ避難していた住民が自分の故郷に戻り、スムーズに生活を再建できるよう、水・衛生促進活動、学校やクリニック建設などの支援を行ってきた。2011年7月に南スーダンがスーダンから独立し、世界で一番新しい国になった後も、支援を継続し、これまで同州に11ある郡のうち8つの郡で住民の生活をサポートしてきた。

2006年から継続して掘削してきた井戸の本数は計211本になり、2013年にはアクセスの難しさなどから、支援活動が最も困難とされている同州最北のファンガック郡に21本の井戸を掘削することができた。同年はさらに5本の井戸を建設する予定だったが、12月15日、首都で政府軍内の部族衝突を発端とした銃撃戦が勃発し、その後、クーデター、国全体の危機へと拡大したため、PWJスタッフは残りの井戸建設を目前に、ほかの国際支援団体や海外の大天使館職員と同様、国外への一時退避を余儀なくされた。

危機発生直後、PWJ長村裕は、最激戦地となったジョングレイ州ボーに駐在していた。反政府軍の進軍は予想以上に早く、空港も一時閉鎖。長村はボーに取り残され、銃撃戦が繰り広げられる中、国連施設に逃げ込み、テントで一夜を過ごした。幸い、翌日には国連のヘリコプターに救出され、首都ジュバで待つほかのスタッフと合流し、在南スーダン日本大使館が手配したチャーター機でほかの在留邦人と隣国ウガンダへ避難した。

強奪後のボーオフィス



金庫もオクラも根こそぎ強奪

ジョングレイ州は南スーダン危機で最も激しい戦闘があった地域の一つで、PWJは同州都ボーに事務所を構えていた。戦闘後、時間がたつにつれ、事務所の被害状況が明らかになった。建物自体はそのままの状態で残っていたが、中にあったものは何から何まで根こそぎ持っていくかれていた。大きなものでいえばインターネット用のアンテナ、発電機2台、車両2台、そして金庫。金庫は金属製でとても頑丈だったが、扉がこじ開けられ、中身の小額紙幣はすべて持ち去られていた。また、庭で栽培していたオクラまでもきれいに収穫されていた。

オクラまで盗まれたボーオフィス



ごみを回収する現地スタッフ



深刻化する事態の中で

今回の南スーダン危機で発生した避難民の数は、2014年4月25日現在約120万人（国内90万人と国外約30万人）に上り、大半の避難民が国際的な支援なしでは生活できない状況にあると言われ、事態は深刻化している。

PWJの日本人スタッフは一度日本に戻り、本部で今後の南スーダン支援について検討した。その結果、実施途中の井戸掘削の活動予算を、難民キャンプでの生活を余儀なくされている避難民の緊急支援に使うことを決めた。そして2月中旬、日本人NGOスタッフは現地入りが許可されていないため、PWJ清水、長村の2人は隣国ケニアの首都ナイロビに入り、遠隔の緊急支援をスタートさせた。

現在の南スーダンでは、首都ジュバの避難民キャンプにおいて、ゴミ回収と給水、排水路の設置・管理、衛生普及員研修、緊急トイレの設置などの支援活動を行っている。衛生普及活動に関しては、最近の聞き取りで、難民キャンプで4人の子どもと暮らす女性から「子供が下痢になりキャンプ内の病院に連れて行った際、衛生普及員から子供は下痢でも死に至る可能性があることを聞き、それ以来、子供たち全員に食事前とトイレの後は必ず石鹼と水で手洗いをさせるようになった」という声が聞かれた。衛生普及活動に取り組むスタッフにとっては、支援の手ごたえを感じた瞬間であった。

遠隔支援ゆえの課題は多く、現場に入れないことで歯がゆい思いをすることもある。しかし、PWJはこのような状況下でも、世界で一番新しい国・南スーダンの発展のため、難民キャンプで生活する国内避難民の生活を支える活動を続ける。

信頼関係で遠隔の困難カバー

ナイロビからの遠隔支援は、現場を直接見て指揮することができない分、現場で活動している団体との密な連絡が必要不可欠です。信頼関係を構築していく上で意識していることは、「任せるとこは信じて任せ、チェックを入れるときは厳しくチェックを入れる」ということです。プロジェクトの実施は現地団体に任せていますが、こちらに上がってくるレポートや証憑などは厳しく精査し、足りないとこをきちんと指摘します。遠隔支援ゆえの困難に出くわすことがあります、避難民支援への情熱をエネルギーにして、継続した支援を行っていきたいと思っています。

南スーダンプロジェクト ナイロビ駐在 長村裕



－イラクより－

PWJは、1996年の団体設立以来、イラク北部のクルド人自治区を中心に、教育、医療、インフラ整備など多岐にわたる支援を開催してきました。2012年、隣国シリアでの内戦長期化を受けてイラク北部にシリア難民キャンプが開設されると、PWJは同年11月から同キャンプで生活物資の配布事業を開始しました。

こうして始まったシリア難民支援も開始から1年半が経ち、事業内容も多様化してきました。現在は、生活用品や衣類の配布のほか、学校保健、キャンプ内の排水路整備、難民主体の衛生促進活動等を行っています。夏は気温が50度にも達する難民キャンプの衛生環境については、現地政府および国際機関等から長らく懸念の声が上がっており、難民の衛生習慣に関する正しい認識の欠如もあり、特に子どもたちの間で皮膚の疾患や下痢などの症例が多く報告されていました。PWJの現在の事業では、学校での集団検診を実施して的確な処置を施し、児童の健康状態を改善すると同時に、排水路の整備や衛生促進活動を通して疾患の一因となるキャンプの衛生状態を改善し、「治療」と長期的な「予防」の二つの手段で、難民の生活の質の向上を目指しています。

特に、難民が主体となって行う衛生促進活動は、難民自身が衛生習慣の普及を行うという点で、非常に意義深い事業です。普及員に選ばれた約40人の難民は、現地保健局の医師から保健衛生についての講習を受けた後、世帯訪問等を通して正しい衛生習慣の普及に努めます。難民キャンプと言えば緊急支援のイメージが強いですが、シリア情勢安定化への道筋が見えず難民生活のさらなる長期化が予想される今、本事業のように難民が主体となって難民キャンプの環境改善に携わる参加型の事業が求められています。難民の自助努力を促することで、援助機関に頼らず、難民主体で活動が継続、発展していくことを目指しているのです。

学校での集団検診の様子



並んで検診の順番を待つ児童



衛生習慣普及員の研修の様子

－広島より－

広島県神石高原町を拠点に災害救助犬の育成や捨て犬の保護・譲渡などに取り組むPWJの「ピースワンコ・ジャパン」プロジェクトでは、保護した犬のことをより多くの人に知ってもらい、新しい飼い主を見つけるため、4月1日、広島市西区のショッピングモール「広島マリーナホップ」内に譲渡センターを開設しました。

犬の保護団体が商業施設に譲渡センターを常設することは珍しく、テレビや新聞にも多く取り上げられ、オープンから1ヶ月半で14頭の譲渡が決まりました。

PWJは、広島県が犬・猫の殺処分数全国ワースト（2011年度）を記録したことを見て、県内の犬の殺処分をゼロにする「1000日計画」に2013年9月から挑戦しており、その実現に譲渡センターは大切な役割を担います。



広島市内にオープンした保護犬の譲渡センター

また、同プロジェクトで育成している災害救助犬ハルク（ゴールデンレトリバー、雄、2歳）が、3月に大阪と兵庫で開かれた国際救助犬試験の瓦礫捜索部門A段階に挑み、同部門出場の6頭中、1位の成績で合格しました。

ハルクは2011年にPWJが導入し、トレーナーの藤崎啓が訓練を続けてきました。現時点でのハルクの力を知るために初挑戦した今回の試験では、サイレン音が鳴るがれき場で15分以内に2人の仮想遭難者を見つける捜索作業などに取り組みました。

結果は、計300点中271点という同部門の最高点を記録。ハルクは見事に合格しました。試験を終え、藤崎は「ハルクにとって、普段と違う雰囲気の中、知らない人に囲まれ、知らない場所で動けたことはとてもよい経験になった」と話しました。次は、より難しい瓦礫捜索部門B段階に今年中に合格することを目指します。

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号: 00160-3-179641

加入者名: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合はその旨）を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 青山支店

口座番号: 普通 1671932

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 桜新町支店

口座番号: 普通 6723184

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合などはご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。